

南川岸地区

東日本大震災の経験から自主防災組織を設立

「地域の人は自分たちで守る」ために

海岸に近い南川岸地区には、令和3年に設立した自主防災組織「南川岸区防災団」があります。

9月3日(日)に実施された町防災訓練では、参加した住民の方に災害時の備えとして揃えた備品などを紹介し、情報を共有しました。



南川岸区防災団の横堀団長にお話を伺いました

——自主防災組織を立ち上げたきっかけは

11年前に起きた東日本大震災の時に、消防団員として各世帯の安否確認をしていたところ、津波で水位が上昇している所で逃げ遅れてしまっている人を発見し、背負って救助活動を行いました。足元が見えない危険な状況下であったことを今でも鮮明に記憶しています。

この時の経験が「地域の人を自分たちで守るためには何をすべきか」を真剣に考えるきっかけになりました。

——自主防災組織としての活動は

南川岸地区では、自主防災組織「南川岸区防災団」を令和3年に立ち上げました。防災団は、地元消防団員と元消防団員、地区役員などで構成されていて、地域のことを良く知る人たちの集団です。

防災団のこれまでの活動は、災害時の備えとして必要な備品を揃えました。また、各世帯を訪問して救急セットを配布し、地区の方ひとりひとりと防災意識を高めていくことを共有しました。

今後は、地区の方々と防災や災害に関する知識の向上を図る機会をつくりたいと考えています。

自主防災組織とは

「自分たちの地域は自分たちで守る」という互助の精神に基づき、地域住民が自主的に結成する組織をいいます。

地区で購入した備品の例



救助用のボート



リヤカー



発電機

町では、地域での防災意識向上のため補助制度があります。

①自主防災組織設置促進事業補助金



②防災士資格取得補助金



防災訓練に参加した會田康介さん



僕がまだ小さい時に起きた4年前の台風で、家の中に雨が吹き込んで大変だったことや近くの水路の水があふれそうになっていたのをよく覚えています。

家にも救急セットがあると聞いて、家族みんながすぐ使えるように玄関先に置くの良いと思いました。



各世帯に配布した救急セットと避難済みステッカー